令和５年度　鹿児島県中学校総合体育大会
柔道競技大会要項

１　大 会 名　鹿児島県中学校総合体育大会柔道競技大会（兼全国・九州大会予選）

２　期　　日　令和５年７月２５日（火）・ ２６日（水）

３　日　　程　令和５年７月２５日（火）　男女団体戦（決勝まで）
８：４５～９：１５…受付及び男女団体戦計量
９：２０…監督・審判会議
９：４０…開会式
１０：００…試合開始
団体戦終了後，表彰式・男女個人戦計量
７月２６日（水）　男女個人戦（決勝まで）
８：４５～８：５５…受付及び男女個人戦計量
９：００…監督・審判打ち合わせ
９：２０…試合開始
決勝戦終了後，閉会式

４　会　　場　**『サンアリーナせんだい武道場』**

５　参加資格　(1)　中学校部活動・地域クラブ活動共通
①　鹿児島県中学校総合体育大会開催基準および「特別規定」に則る。
②　公益財団法人全日本柔道連盟(以下,全柔連)が定めた令和4年度期間内において，各都道府県柔道連盟(協会)を通して全柔連に加盟，登録を済ませている。加盟，登録上，届け出をしている所在地で参加することができる。（県外生徒は対象外）
ア　チームとして「団体登録」を済ませている → 団体戦に出場可
イ　競技者として「競技者登録」を済ませている → 個人戦に出場可
ウ　同一年度中は，最初に参加した所属チームからの変更は認めない。
(2)　中学校部活動所属の場合
①　各地区中学校体育連盟加盟の学校に在学し，学校教育法に基づく当該中学校生徒で各地区代表であることとする。
②　監督は当該中学校の学校職員（常勤）・部活動指導員とする。（事務職員・主事・司書補等も可）
③　引率は，当該中学校の校長・教員・部活動指導員とする。
④　コーチは（各校男女別１名，他校との重複可）当該中学校の学校職員又は正式に認められた外部指導者とし，ベンチ入りを認める。ただし，コーチのみのベンチ入りは認めない。
(3)　地域クラブ活動所属の場合
①　地域クラブ活動の参加資格については，鹿児島県中学校総合体育大会への地域クラブ活動の登録規準に則る。
②　所在地の地区大会に出場し,県総体の出場権を得たチーム・選手とする。
③　引率，監督，帯同コーチはＣ指導員以上の資格を有していること。
(4)　男子団体戦の各地区代表校数は団体戦出場校数比（出場チーム数ではない）とし，次表のとおりとする。

地区大会出場校数	１～４	５～６	７～８	９～10	11～12	13以上
県大会出場校数	3	4	5	6	7	8

(5)　女子団体戦は地区大会に参加した学校とする。
(6)　男・女個人戦各階級の各地区代表者数は，上記の「地区大会出場校数」を各階級の「地区大会各階級個人戦出場者数」とし，それによる。

６　参加制限　(1)　初心者の参加については，柔道修業期間を６カ月以上経過した中学生のみ，大会に参加することができる。
(2)　鹿児島県中学校体育連盟が主催する本大会に出場するチーム・選手の引率者，監督，コーチ等は，部活動中の指導中における暴力・体罰・セクハラ等（以下暴力等」）により，任命権者又は学校設置者から懲戒処分を受けていない者であることとする。校長はこの点を確認して，大会申込書を作成する。なお，外部の指導者は校長から暴力等に対する指導措置を受けていないこととする。

7　団 体 戦（1）　１チームの人員は，男子は選手５名・補欠２名以内，女子は選手３名・補欠１名以内（先鋒・中堅・大将に編成）とする。ただし，男子３名以上・女子２名以上の選手で出場を認める。

（2）　選手の編成は，体重順とし，チーム内で一番軽い者を先鋒，一番重い者を大将とする。なお，補欠を選手に繰り入れる場合も体重順に編成する。一度退いた選手の再出場は認めない。

（3）　男子３名で出場するときは先鋒・次鋒を空とし，４名のときは先鋒を空とし，女子で２名のときは先鋒を空とし，残りを体重順に編成する。

（4）　計量時に体重が申込書と違う順になる場合はその場で変更する。

（5）　大会申込書提出後に，選手の病気・負傷等で選手の変更を必要とする場合は，当該学校長印を押印した理由書を変更後の選手名簿とともに，監督会議前に提出する。

8　個 人 戦（1）　男子個人戦は，次の８階級とする。

体重区分　50kg級・55kg級・60kg級・66kg級・73kg級・81kg級・90kg級・90kg超級

（2）　女子個人戦は，次の８階級とする。

40kg級・44kg級・48kg級・52kg級・57kg級・63kg級・70kg級・70kg超級

9　競技方法（1）　団体戦は，トーナメント方式で上位４チームを決定し，４チームのリーグ戦で順位を決定する。

（2）　個人戦は，トーナメント方式で順位を決定する。

（3）　団体戦におけるチーム間の勝敗は，次の順による。

①　チーム間における勝ち点の数による。

②　①において同等の場合は，勝ちの内容による。

③　②において同等の場合は，代表戦（自由代表）により決定する。

（4）　団体戦のリーグ戦における順位の決定は，次の方法によって決定する。

①　チーム間における勝ち・引き分け・負けの率による。

②　①において同率の場合は勝ち点の合計による。

③　②において同等の場合は勝ち点の内容による。

④　③において同等の場合は負け数とその内容による。

⑤　④において同等の場合は代表戦（自由代表）によって決定する。

10　競技規則（1）　試合は国際柔道連盟試合審判規定（2023年4月1日施行のルール）及び「少年大会特別規定」による。

（2）　試合時間は，団体戦・個人戦とも３分（ゴールデンスコアは無制限）とする。

（3）　勝敗の判定基準は，団体戦においては「一本」「技有」又は「僅差（『指導』の差２）」とする。代表戦及び個人戦においては「一本」「技有」又は「僅差（『指導』の差２）」とする。得点差がない場合は延長戦（ゴールデンスコア）により，勝敗を決する。

（4）　全国中学校柔道大会の申し合わせ事項を準用する。

（5）　柔道衣にゼッケン（学校名・名字入り）を縫いつけて出場する。

①　布地は白とする。サイズは横30～35cm，縦25～30cm。

②　名字（姓）は上側２／３，所属名（○○中の場合，中の字は入れなくてもよい）を下側１／３。

③　書体は太字ゴシック体とする（明朝または楷書でもよい）。

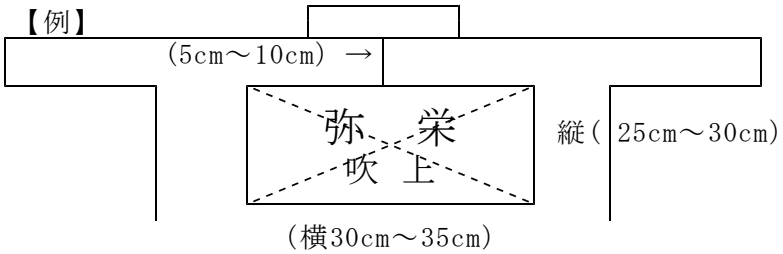
④　男子は黒色，女子は濃い赤色とし，はっきりと記名する。

⑤　縫付場所は後襟の下から5～10cm下部の位置で，周囲と対角線を強い糸で縫い付ける。

（6）　ゼッケンや胸マーク等の表示や位置については，全柔連の規則に則る。

（7）　ゼッケンや胸マーク等の表示は所属先が統一されていること。（部活動で出場の場合は学校名，地域クラブ活動での出場の場合はその団体名）

（7）　女子は，上衣の下に白色の半袖Ｔシャツを着用する。



11　申込方法

(1) 期 限	６月20日（火）
(2) 規 定	【各学校顧問　→　各地区専門部長】 ①　申込書は県中体連ホームページからダウンロードし，必要事項を入力する。 ②　各学校の顧問及び地域クラブ活動の担当者は以下のものを各地区専門部長に提出する。 ・　入力した申込書データ（データのままメール送信） ・　プリントアウトした申込書（郵送・持参・使送便等）
	【各地区専門部　→　県専門部長】 ①　「各学校・地域クラブ活動からの申込書」と「地区出場者一覧（紙媒体）」 ②　「地区出場者一覧（データ）」（フォルダにまとめてメール送信） 〒899-3301　日置市吹上町中原1691　吹上中学校 弥栄敏郎　宛 （TEL）099-296-2009　（FAX）099-296-2272 ※メールアドレスは各地区専門部長に個別で伝える。

12　抽 選 会　６月28日（水）13時から「かごしま県民交流センター」で行う。
（出席者：地区専門部長・県強化指導員）

13　表　　彰　団体・個人とも４位までとし，参加賞は登録選手に授与する。

14　そ の 他

(1)　男女団体戦出場者は，１日目の午前８時45分から９時15分までに計量を済ませる。男女個人戦出場者は，１日目団体戦表彰式終了後（30分程度）に計量を済ませる。
　また，公式計量は１回とし，非公式計量は指定時間内に自由に測定することができる（女子団体リーグ戦から男子団体リーグ戦終了まで）。
　ただし，前日計量を受けなかった者で，個人戦に出場する者は２日目の午前８時45分から８時55分でも認める。その場合も計量は１回とする。
　公式計量の服装は，男子は下穿き，女子はＴシャツと下穿きの着用を認める。なお，下着は認めるが包帯・サポーター等の着用は一切認めない。

(2)　監督は午前９時までに受付を済ませ，受付時に参加申込料として，一人800円を納入する。

(3)　組合せ抽選会における団体戦のシードについては６月の県大会のベスト８とする。個人戦のシードについては前年度の県総体，県柔道会主催・後援の県大会及び県選抜強化練習会を参考にする。

(4)　全国大会への参加資格は，団体戦は男女とも本大会の優勝チーム，個人戦は，男女とも各階級優勝者とする。

(5)　九州大会への参加資格は，団体戦は男女とも本大会の上位２チーム，個人戦は男女とも各階級上位２名とする。

(6)　外部コーチについては，必ず地区・県中体連に登録する。

(7)　監督およびコーチは審判員に準じた服装を着用する。

(8)　脳震盪対策について
　①　大会前１ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は，脳神経外科の診療を受け，出場の許可を得る。
　②　大会中，脳震盪を受傷した者は，継続して当該大会に出場することは不可とする。

(9)　皮膚真菌症（トンズランス感染症）については,発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい,もしくは感染が判明した選手については,迅速に医療機関において,的確な治療を行うこと。選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は,大会への出場ができない場合もある。

(10)　出場選手及び引率者，応援者等は，新型コロナウイルス感染予防対策を徹底すること。